

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第 14 回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：大学院医学系研究科・医学部、および、医学を志す教養学部生・高校生や社会において、
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2026 年 6 月 26 日（金） 16:50～18:00 （第一部：現地＋オンラインのハイブリッド形式）
18:00～19:00 （第二部：現地のみ）
3. 会場：東京大学医・総合中央館（図書館）333 会議室およびオンライン（Zoom）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）
※ 他機関からの参加可。
5. 申込方法：事前申込制。
現地参加定員 110 名
オンライン参加定員 先着 500 名まで登録可。
6. 内容：
司会・進行：細谷紀子、本田郁子
＜第一部＞
16:50 開会挨拶
（吉川雅英 副医学系研究科長・副医学部長・男女共同参画委員会委員長
山内敏正 副院長）
16:55 講演
① 垣内 美和子 先生（衛生学 助教）
「いくつもの顔で生きていく ― 多様な役割を担いながら、自分らしく働く ―」
② 稲田 晴彦 先生（公衆衛生学分野 准教授）
「公衆衛生学分野（実験系を含まない）のキャリアとワークライフバランスの一例」
17:40 質疑応答・全体討論
17:58 第一部締め挨拶 細谷 紀子 実行委員会幹事
＜第二部＞
18:00～19:00（現地のみ） 自由歓談・情報交換
7. 企画・運営：
東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会
第 14 回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会
（幹事）細谷紀子・本田郁子
（委員）雨宮史織・稲田晴彦・入山高行・菅谷佑希・田村純人・春名めぐみ
M4：浅野笙・神作優尊・水田真美、M3：岩崎野笑・大石紘也・鈴木慎
M2：相原瑞貴・牛田蓮、M1：金知友・小峰千明・下田結己、C2：眞田衛・上甲柊・内藤陽貴

II. 開催報告

1. 参加申込者数と属性

【全体】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
演者)垣内美和子先生	1		1	0.8
演者)稲田晴彦先生	1		1	0.8
東大)教員	7	13	20	15.9
東大)ボスドク・病院診療医	2	0	2	1.6
東大)大学院生	4	8	12	9.5
東大)研修医	0	0	0	0.0
東大)学部学生(医学部医学科)	16	4	20	15.9
東大)学部学生(教養学部1,2年)	17	11	28	22.2
東大)その他(技術職員・事務など)	2	3	5	4.0
学外)高校生	15	13	28	22.2
学外)その他	2	7	9	7.1
合計	67	59	126	100

【高校生の所属の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
渋谷教育学園幕張(千葉県)	5	4	9	32.1
日比谷(東京都)	2	1	3	10.7
都立武蔵(東京都)	2	1	3	10.7
開成(東京都)	0	3	3	10.7
東京学芸大附属(東京都)	1	1	2	7.1
お茶の水女子大附属(東京都)	1	0	1	3.6
桜蔭(東京都)	1	0	1	3.6
戸山(東京都)	1	0	1	3.6
多摩大学附属聖ヶ丘(東京都)	1	0	1	3.6
三田国際科学学園(東京都)	1	0	1	3.6
豊島岡女子(東京都)	0	1	1	3.6
米子東(鳥取県)	0	1	1	3.6
創価(東京都)	0	1	1	3.6
合計	15	13	28	100

<性別の内訳>

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
男性	34	25	59	46.8
女性	32	34	66	52.4
回答しない	1	0	1	0.8
計	67	59	126	100

【学外(他大学・他機関、他)高校生以外の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
他大学・他機関	2	3	5	56
保護者	0	2	2	22
その他	0	2	2	22
計	2	7	9	100

2. 当日参加者数

現地参加者 46名(会場受付で確認)

オンライン参加者 38名(Zoomの接続記録より)

計 84名

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012 年以降、毎年 6 月の男女共同参画週間に開催されてきた。第 14 回目を迎える今回も前回同様に現地・オンライン（Zoom）のハイブリッドで開催した。当日は、学内外から 46 名の現地参加、38 名のオンライン参加があり、そのうち約 2 割を高校生が占めた。講師として、衛生学助教の垣内美和子先生と、公衆衛生学准教授の稲田晴彦先生をお招きし、若手の医師・研究者・学生・高校生のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、ライフイベントを経験しながら前向きに臨床・研究を展開する生き方への理解を深めることを目指した。

開会にあたり、吉川雅英副医学系研究科長・副医学部長・医学部男女共同参画委員長と山内敏正東京大学附属病院副院長より挨拶をいただいた。吉川副医学系研究科長・副医学部長は、東京大学における女性教員比率の現状を紹介され、現在の比率は約 22%で年約 1%ずつ増加しているものの、中間目標である 2031 年の 30%達成には年 2%の増加が必要な状況であると指摘された。最終目標の 40%が達成されれば、医師国家試験に合格する女性の割合 40%とほぼ同等になることが期待されるため、そのときに向けて、多様な働き方ができるような環境を整備してゆくことが大切だと述べられた。山内副病院長は、医学部学生、教養学部生、高校生など、医学を担う若い世代からの多くの参加に喜びを示された。本日の講師のお二人がともに卒後 20 周年を迎える同期であることを紹介され、講師の先生がたの多様なキャリアやライフイベントへの向き合い方が、参加者の皆さんのキャリア形成や人生設計に新たな視点や勇気をもたらす機会となることを心より願う、と述べられた。

続いて、講演 1 として講師の垣内美和子先生より「いくつもの顔で生きていくー多様な役割を担いながら、自分らしく働くー」というタイトルで講演が行われた。垣内先生は消化器内科を専門とし、現在は基礎医学の教室に在籍しておられる女性医師・研究者である。自身のキャリアと人生を振り返りながら、特に若い世代に向けて積極的に多様な経験に関わることの重要性を訴え、ワークライフバランスをいかに実現し困難を乗り越えてきたかについて具体的に語られた。

両親が大学研究者という環境のもとで医学の道を志し、2000 年に東京大学へ入学。学生時代の最初の 4 年間はオーケストラ部に打ち込み、医学部 5 年次には、東京大学医学部医学科の同窓会組織である鉄門倶楽部の議長（女性初）を務めた。がんの患者を最も多く診る消化器内科を志望し、外科・内科それぞれをクラークシップで経験するなかで、抗がん剤の選択肢の少なさに限界を感じたことが研究への意欲を高めたという。また、指導医から「君はこれから先、いろいろな役割をこなさなくてはならない。あとに続く人のモデルになるべき存在だ」と激励されたことから、今回の講演タイトルを決めたという。初期研修後に大学院へ進学し、エピゲノム研究を経て先端科学技術研究センターに移り、スキルス胃がんのゲノム解析に従事。RHOA 遺伝子変異の同定という成果を挙げ、育児と並行しながら学位を取得された。その後、ポスドクとしてコロンビア大学（ニューヨーク）に留学し、造血幹細胞と免疫の研究に携わった。COVID-19 禍という困難も経験しながら約 4 年間で過ごし、帰国後は東大衛生学教室に着任。現在はがんの微小環境をターゲットとした研究を続けているという。

垣内先生は育児・介護をワークと並走させてきた経験から、「一人で抱え込まず外部に委ねること」「価値観の合うパートナーの存在」がキャリア継続の鍵であると強調された。また、AI を情報収集に積極的に活用しつつも、人間にしかできない思考の過程や実体験から生まれる研究へのモチベーションを大切にしたいというメッセージを述べられた。

引き続き、講演 2 として講師の稲田晴彦先生により「公衆衛生学分野（実験系を含まない）のキャリアとワークライフバランスの一例」というタイトルで講演が行われた。稲田先生は公衆衛生学を専門とし、交通安全政策の研究を行う男性医師・研究者である。自身のキャリアと家庭生活を振り返りながら、若い世代に向けてワークライフバランスの具体的な実践例を語られた。

稲田先生は学部学生時代の部活の怪我をきっかけに参加したアジア医学生会議で国際保健・公衆衛生の分野に出会い、国際保健のスタディツアーやWHOへのインターンなど経験されて、興味を深めていかれた。卒業後は二年間の初期臨床研修を経て大学院へ進学し、公衆衛生学教室で日本の医療制度に関する研究を行い、学位を取得した。筑波大学への就職後は、研究室の教授の専門であった交通安全政策について指導を受けながら研究を行った。当初は変わった分野と感じていたものの、指導を受けるうちにその面白さに気づき、その後のご自身の専門の研究テーマとなったという。その後、厚生労働省への人事交流を二年間経験し、ジョンス・ホプキンス大学への留学期間を経て、3年前に東京大学へ11年ぶりに戻られた。

ワークライフバランスの実践については、臨床医の妻との役割分担を具体的に紹介された。両者ともフルタイム勤務を維持しながら、睡眠七時間の確保を徹底し、家事育児を協力して行っている。朝夕の食事準備や病児保育を利用する場合の送迎は、稲田先生が主に担っているという。ミールキットや家事代行サービス、病児保育、親族のサポートも積極的に活用しており、「外注できるものは外注する」という姿勢を強調された。育休についても本学で二度取得しており、男性教員としては異例であったことも紹介された。最後に、キャリアとワークライフバランスは「人による」としつつも、自分の適性と優先順位を見定めること、男性も家事・育児を積極的に担うこと、そして良きロールモデルやメンターの存在が重要であると述べられた。

質疑応答の時間には、ロールモデルが少ない中でキャリアを続けられたモチベーションは何か、研究者として子育てとワークの時間をどのように両立してきたか、育休・産休に伴い研究がストップした際の制度上の不都合やサポートについて、といった質問が挙げられた。それらに対し、垣内先生と稲田先生は、「仕事が好きだからこそモチベーションを維持できた」「研究スタイルに融通の利きやすさがあった」「配偶者との相互理解が支えになった」などと回答された。また、育休・産休期間を考慮した研究費申請制度や東京大学における支援制度についても紹介された。

第一部の中締めの挨拶として、細谷紀子実行委員会幹事より、垣内先生、稲田先生への謝辞が述べられた。18時より第2部として、現地参加者のみによる自由歓談の時間が設けられ、高校生や医学部学生を中心に約30名が残って引き続き参加した。質問は途切れることなく続き、19時まで会は続いた。高校生や大学生が講師や教員を積極的に囲んで対話をし、とても充実した「交流」の時間を持つことができた。

III. 参加者アンケートの集計結果

当日参加者数：85 人（現地参加者 46 名、オンライン参加者 39 名（受付・接続記録より）

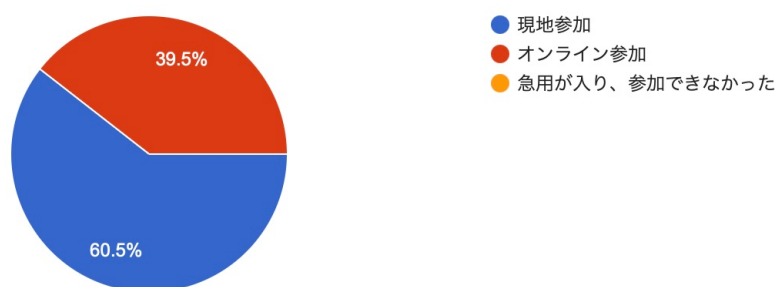
アンケート回答者数：38 件（回収率 44.7%）

アンケート実施方法：参加登録者全員に Google フォーム経由の回答を依頼

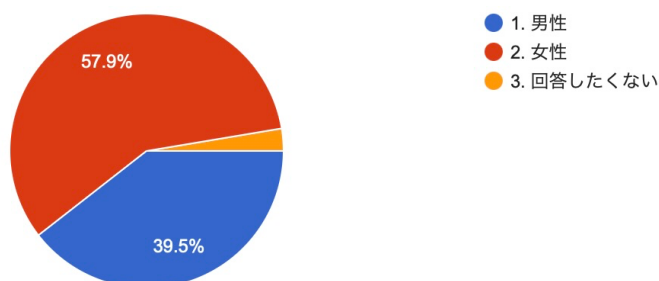
アンケート実施期間：2026 年 6 月 26 日（金）（会の終了後）～7 月 3 日（金）

<基本情報>

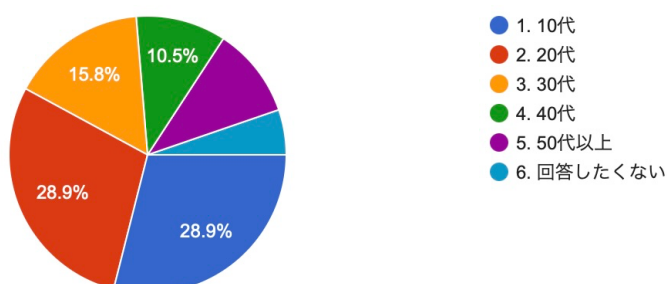
A0) 今回の「第 14 回医学系キャリア支援のための交流会」はハイブリッド形式で開催しました。
参加いただけましたか？参加した場合、どちらの方法で参加されましたか？



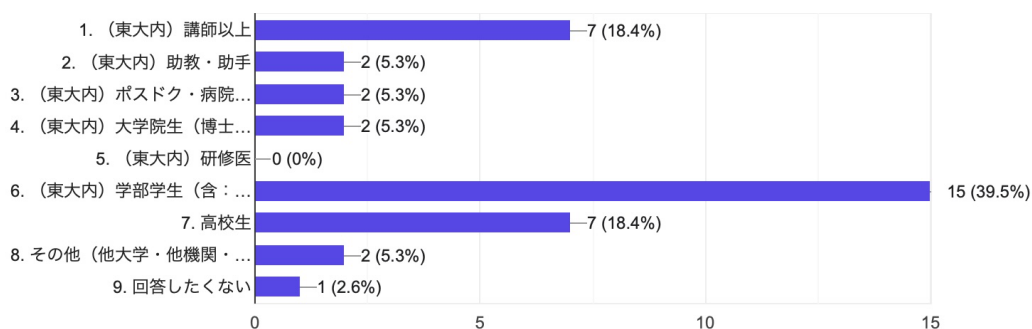
A1) 性別



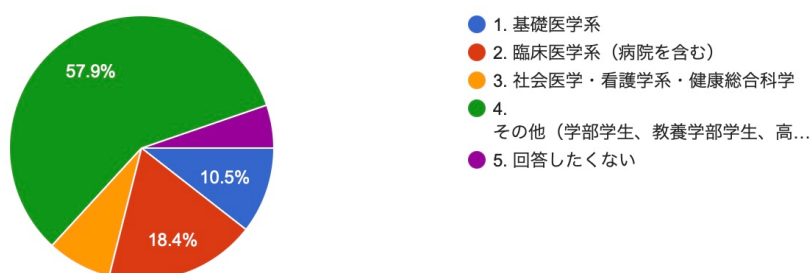
A2) 年齢



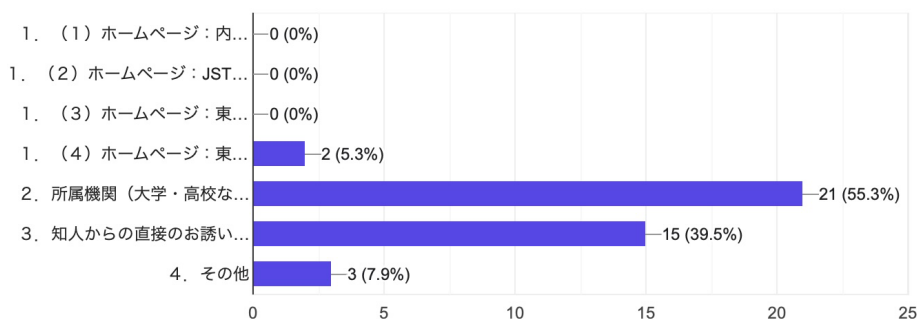
A3) 職種・職位（特任・客員を含む）



A4) 所属分野

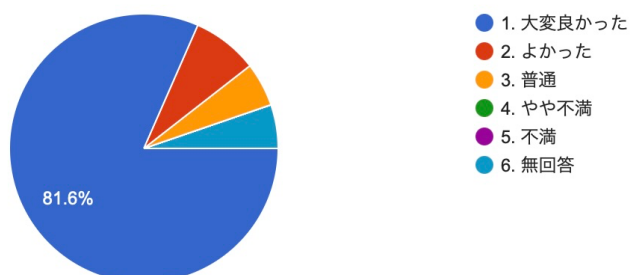


A5) この会を何でお知りになりましたか（複数回答可）

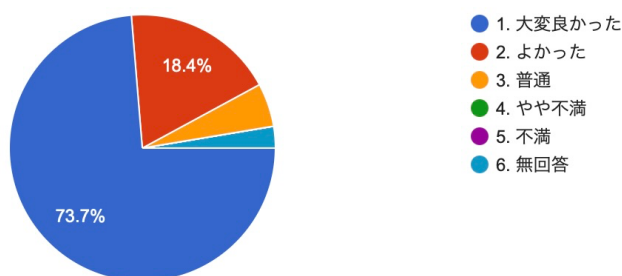


<今回の企画について>

B1) 講演 1 垣内美和子先生「いくつもの顔で生きていく — 多様な役割を担いながら、自分らしく働く —」について



B2) 講演2 稲田晴彦先生「公衆衛生学分野（実験系を含まない）のキャリアとワークライフバランスの一例」について



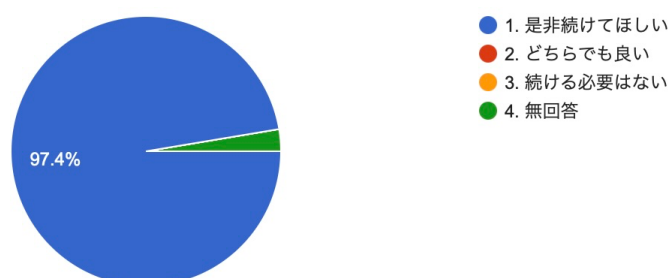
B3) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

- ・ 卒後 20 年の先生方のご講演ということで、ライフ・ワークともにまさに現在進行中のご活躍ぶりについてお話を聞くことができました。ご卒業からの 20 年間に、研修や臨床、研究、留学、行政実務、ご結婚やご出産、育児などさまざまなご経験をされ、各方面でバランスを取りながら、精力的に取り組んでこられたご様子が伝わってきました。
- ・ お二方のキャリアのお話と具体的なワークライフバランスの取り方のお話が伺えて、大変参考になりました。私自身学会の男女共同参画委員を務めており、若手が参考になるようなキャリアの具体的な話に触れられる機会がないことが学会のアクティビティを下げているのではないかと、といった議論が日々行われておりましたので、その打開案として今回のお話は大変参考になりました。
- ・ お医者さん本人の声が聞ける機会が素晴らしいと思う。男女それぞれいらっしゃるのも良かったです。特に、結婚や出産などのライフイベントの両立の仕方について気になっていたのも、ドンピシャに必要な内容だと感じました。
- ・ 先生方がこれまでどのようなお考えのもとで人生の選択を重ねてこられたのかを伺うことができ、大変興味深く、多くの学びを得ることができました。2 名の先生をお招きするスタイルも非常に良かったと思います。
- ・ ワークライフバランスを考えながら留学をして研究を深めたいと思っていたため、非常に参考になりました。医師のワークライフバランスの取り方を具体的に教えていただけてありがたいです。
- ・ 育児をする男性のキャリアの話聞いた良い機会でした。一方で講演者の先生は、業績を求められる不安定な若手研究者の時期は実質的に独身に近い状態であったように感じました。研究者としてのステップアップと育児のバランスを取るのは男性でも難しいのかなといった印象です。
- ・ ご自身の経験を、私たちと深く関係しうる側面から、分かりやすくご講演いただき、たいへんためになった。
- ・ キャリアについてのお話もわかりやすかったですし、それだけでなく大学での生活や研究のお話もとても興味深かったです。
- ・ お二人の講演は非常に参考になりました。研究者と臨床医の組み合わせも良いかと思いました。
- ・ 医学系におけるキャリア形成について興味深く拝聴しました。ワーク・ライフの多様なお話は

今後の参考にもなります。

- ・現在の困りごとについて参考になるお話が沢山あり、勉強になりました。
- ・とても具体的なエピソードもあって、大変参考になりました。
- ・本日は、医学系キャリアについてのお話をいただきありがとうございました。大学入学後、そして卒業後についての様々な興味深いお話を聞くことができました。本当にありがとうございます。
- ・先生方のキャリアとライフを学生向けに分かりやすく噛み砕いてお話いただけたのが良かったです。第2部では、講師の先生だけでなく、先生方や先輩方、さらに、高校生とも話すことができ、とても良い参考になりました。

B4) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。



B5) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会について：

- ・本学卒後 20 年の先生方のお話を伺い、異なったお立場からのご意見を伺えて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・男女お一人ずつ、同期の先生方のご講演を通して、キャリアの多様性を実感することができました。演者の先生方には我々の質問を真剣に聞いていただき、キャリアの選択に関するさまざまな考え方をご提示いただき、大変感謝しております。
- ・授業の時間割により直接の参加は叶いませんでしたが、オンラインにて聴講することができました。このような場を設けてくださり、本当にありがとうございます。
- ・お忙しい中、このような機会を設けていただき、ありがとうございました。今後もこのような意見交換や交流の場を継続していただけますと幸いです。
- ・とてもよかったです。来年も参加したいと思いました。
- ・長年、このような機会を設け、運営を続けられてきたことを伺い、感謝の気持ちで一杯です。
- ・ありがとうございました。

今後の交流会に関するご要望：

- ・臨床系の先生のお話も聞きたい。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。
本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思います。
今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会